

## 市村到君（4組）の新刊紹介

上原 昇（2組）

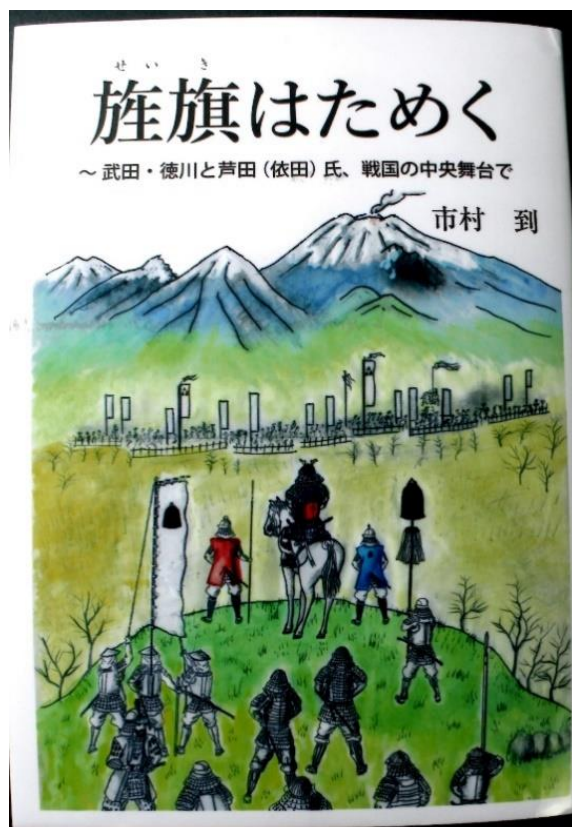
数多い戦国武将たちの戦いの中で、小県郡出身の芦田（依田）一族を中心に歴史研究を続けている市村到君(4組)がこの度、以下の新刊を上梓した。

『旌旗（せいき）はためく ～武田・徳川と芦田（依田）氏、戦国の中央舞台で』（2022年8月30日、信毎書籍出版センターから発行、税別定価 2,727円）著者の言によると「既刊『戦国三代と天下人～芦田（依田）氏の軌跡から』（悠光堂、2020年）の姉妹篇で、内容は大差ありません。写真や図版を少なめにして、読みやすくスリム化を試みたものです。」

とはいっても、561ページにおよぶ本著は、持つとずしりと重く読みでが有りそうだ。

それに感心したのは本の表紙の絵が、市村君の筆によるものである。（下の写真参照）

一見、映画監督、黒澤明の「影武者」の絵コンテを彷彿とさせるタッチである。芦田（依田）氏の中でも信蕃（のぶしげ）は特に名将の誉れが高く、最近読んだ時代小説の中にも登場し、有名になっているようだ。



そうした中、芦田（依田）氏研究家の市村君にも各地から声がかかっているようで、来月の10月29日には藤枝市郷土博物館で歴史講座の講師を務めるとのことである。

市村君のますますの活躍を期待したい。

（2022年9月10日記）